

国際理解教育/開発教育 学習指導（活動）案

授業者氏名	尾島 治子	学校名	大田区立大森東小学校
教科（科目）・領域	特別活動（学活）・道徳	対象学年（人数）	1 年 1 組（ 23 名）
実践年月日もしくは期間（時数）	2020 年 11 月（ 2 時間）		

【実施概要】

1. 単元名（活動名）：Welcome to Tokyo! ～新型コロナウイルスを乗り越えて～					
2. 実践する教科・領域： 道徳（C:国際理解、国際親善） 特別活動（学級活動）	3. 学習領域				
		1	2	3	4
	A 多文化社会	文化理解	文化交流	多文化共生	
	B グローバル社会	相互依存	情報化		
	C 地球的課題	人権	環境	平和	開発
	D 未来への選択	歴史認識	市民意識	社会参加	
4. 単元の目標（評価規準を意識して設定）：					
・世界で流行している新型コロナウイルスや感染症について理解し、東京の市民として、安心して東京に来てもらうために感染拡大防止に向けて一人ひとりが何をしたらいいかの具体的な思いをもつ。 ・安心して東京に来てもらうための安心マークを決め、東京で行われるイベントへの気持ちを高める。					
5. 単元の 評価規準	①知識及び技能	新型コロナウイルスや感染症について理解する。			
	②思考力、判断力、表現力等	友達の意見（考え）を聞き、コロナ禍で自分で予防できることを表現する。			
	③学びに向かう力	自分が実践している取り組みが、地球のみんなを守ることに繋がっていることを考えようとする。			
6. 単元設定の理由・単元の意義 （児童/生徒観、教材観、指導観）	【単元設定の理由あるいは単元の意義】				
	単元設定の理由 2020年、日本や全世界の人々が待ち望んでいたオリンピックが東京で開催されるはずだった。しかし、新型コロナウイルス感染が世界規模に広がり、延期になってしまった。そんな中、学校生活を楽しみに入学した本校の1年生は、入学式後約2か月家で学習することになった。そこで、新型コロナウイルスについて理解し、ウイルス予防のために自分で毎日できることを決めた。新しい生活様式に順応しつつある中で、自分たちが実践していることが地球のみんなを守ることと繋がっていることを意識させたい。そして、オリンピック・パラリンピックも含めて、安心して東京へ来てもらうためにどうしたらいいかを考えてほしいと思い、本単元を設定した。 単元の意義 学習指導要領の特別活動の学級活動の目標に、「学校での生活をよりよくするための課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成し、役割を分担して協力して実践したり、学級での話し合いを生かして自己の課題の解決及び将来の生き方を描くために意思決定して実践したりすることに、自主的、実践的に取り組むことを通して、目標に掲げる資質・能力を育成することを目指す」と、書かれている。学級活動（2）のウには、「日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全」においては、次のとおり資質・能力を育成することが考えられる。				

	○日常の生活や学習への適応合いを生かして自己の成長及び健康安全といった、自己の生活上の課題の改善に向けて取り組むことの意義を理解するとともに、そのために必要な知識や行動の仕方を身に付けるようにする。 ○自己の生活上の課題に気付き、多様な意見を基に、自ら解決方法を意思決定することができるようにする。 ○自己の生活をよりよくするために、他者と協働して自己の生活上の課題の解決に向けて粘り強く取り組んだり、他者を尊重してよりよい人間関係を形成しようとしたりする態度を養う。 新型コロナウイルスから身を守るために、まず新型コロナウイルスや感染症についての理解を確認したい。学校が再開してから毎日のように「3密を避けて過ごす。」と言い続けてきた。ある程度は、ウィルス対策を理解していると思うが、この授業を通じて、理解を確実にし、毎日の生活で今以上に意識させ実践させていきたい。そして、自分の実践が地球のみんなを守ることに繋がっていることを位置付け、東京に来てほしいという気持ちを高めたいと思っている。 本授業は、SDGsの3「すべての人に健康と福祉を」と関連付けた。あらゆる年齢の人々が、健康的に安心して生活を送れるように過ごせることを目指しているが、今回の新型コロナウイルスの流行により、医療サービスを受けられなかったり、予防できなかったりして、命を落とす人達もいた。そこで、新型コロナウイルスや感染症について理解し、感染症予防できることが、地球を守ることに繋がると学ばせたい。 【児童観】 今年度入学した1年生の児童は、新型コロナウイルスの影響をもろに受けた。2か月近く自宅待機をしたせいか、再開後は「学校大好き!」「友達といることが楽しい!」と、この状況にある程度受け入れて学校生活を送っている。ただ、マスクをしての生活が続き、汗臭くて辛いと訴える児童もいた。児童の七夕の短冊には、「コロナになりたくない。」や「コロナから家族を守りたい。」など、新型コロナウイルスに関する願いが多く書かれていた。新型コロナウイルスや感染症を理解し、自分の行動が地球を守ることに繋がっていることに気付かせたい。 【指導観】 カタカナを習い始めて、カタカタの言葉には外国名が多いと気づく児童が多かった。また、外国にルーツをもつ児童も数名おり、海外に対して親しみを感じている。そこで、2学期から班の名前を国名にしてみた。そうすることで、外国により関心をもつ児童が増えた。教室内に世界地図を掲示しているこので、地図を見て、外国が身近と感じている児童もいる。朝の時間のオリンピッククイズを通して、オリンピックに関する知識を少しずつ知る機会を設けた。 学習指導要領の特別活動の道徳の内容C「主として集団や社会との関わりに関すること」には、(国際理解・国際親善)の第1学年及び第2学年の目標として、「他国の人々や文化に親しむこと。」とある。この段階においては、他国の人々や文化に親しむ経験が多くはないという実態がある。意見を出し合ったり深めたりしながら、他国に興味をもち、親しもうとする気持ちを高めるような工夫をすることが大切だと考える。自分が地球のひとりで、自分の行動が世界につながっていると考えられるように、日々取り組んでいる。		
7. 単元計画 (全 2時間)			
時	ねらい	学習活動	資料など
1	・新型コロナウイルスや感染症について理解する。 (学級活動)	・紙芝居を見る。 ・JICAの感染症の冊子を見る。 ・確認項目をチェックする。	・コロナウィルスについて (藤田医科大学) ・感染症(JICA冊子)
2 本時	・安心して東京に来てもらうために感染拡大防止に向けて、ひとりひとりが何をしたらいいのか具体的な思いをもつ。 ・オリンピック、パラリンピックに向けての気持ちを高める。 (道徳:C 国際理解、国際親善)	・自分でできるウィルス対策を紙に書き、発表する。 (できたら二人グループで話し合い後) ・東京に来てもらうための安心マークを考える。(オリンピック/パラリンピックを含めて)	・オリンピック パラリンピック 学習読本 (東京都教育委員会)

8. 本時の展開（概略）※過程の網掛け部分は適宜変更下さい。

本時のねらい：東京の市民として、安心して東京に来てもらうために一人ひとりが何をしたらいいか自分なりの思いをもつ。

過程・時間	教師の働きかけ・発問および学習活動	指導上の留意点 (支援)	資料（教材）																												
導入 (5分)	「今日、新型コロナ予防のためにやったことはありますか。」 ・手洗い、うがい。 ・マスク。 ・密着しない、Tポーズ。	午前中に実施できたことを振り返り、今日の授業への関心を高める。	新型コロナウイルス 感染予防チェックリスト																												
展開 1 (15分)	「前回にチェックした紙を出してね。」 「そこに書いてあることで、自分が一番がんばっていることはどれかな。」	用意した画用紙に書かせる。 書いた画用紙を黒板に掲示する。	<table border="1"> <caption>チェックリスト(コロナウィルスからまもるためにやっていること)</caption> <thead> <tr> <th></th><th>なまえ</th><th>()</th><th></th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td><td>ころなぼうしたいさく</td><td>いつもやっている</td><td>たまにやっている</td></tr> <tr> <td>1</td><td>マスクをつけている</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td>手あらいをしている</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td>太ごえでしゃべらない</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>4</td><td>ともだちをさわらない</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>5</td><td>くっつかない</td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>		なまえ	()			ころなぼうしたいさく	いつもやっている	たまにやっている	1	マスクをつけている			2	手あらいをしている			3	太ごえでしゃべらない			4	ともだちをさわらない			5	くっつかない		
	なまえ	()																													
	ころなぼうしたいさく	いつもやっている	たまにやっている																												
1	マスクをつけている																														
2	手あらいをしている																														
3	太ごえでしゃべらない																														
4	ともだちをさわらない																														
5	くっつかない																														
展開 2 (20分)	○掲示した内容から感染予防の共通点を見つける。 ・くっつかない。 ・マスク ・手洗い 「みんながコロナを予防するのは、誰のためかな。」 ・自分のため ・家族のため ・身の回りの人 「東京に来る人のためでもあるよね。」 「じゃあ、東京に来る人のために、安心して東京へ来てもらうように、安心マークを考えてみよう。」 ・ハート ・スマイルマークなど	自由に発言させる。 安心マークを紙に書かせる。	(オリジナル作成)																												
まとめ (5分)	・東京で行われるイベント（オリンピック、パラリンピック）について、学習読本を読み、期待を高める。		・オリンピック／パラリンピック学習読本 (東京都教育委員会)																												

9. 評価規準に基づく本時の評価（評価方法）

- ・自分が新型コロナウィルを防止するために実践することを記入する。（ワークシート）
- ・安心して東京に来てもらうために、安心マークを考えて書く。（書いた画用紙）

10. 学習方法および外部との連携

※単元実施や活動に向けて、関わった人(ゲストティーチャーなど) や関係機関先があれば、連携に至る背景や、連携による効果、学びの深まりなどとあわせて記入してください。※ゲストティーチャーや教師、学習者同士の関係性として重視したことがあれば記入してください。特にアクティビティのような学習者同士の交流が生まれる学習方法・技法を用いる場合は、その意図や効果を記入してください。

11. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取り組み

- ・校内で授業を公開する。事前に周知し、参観者を募集する。

【自己評価】

12. 苦労した点	※学習活動が展開する中での苦労や、そこで見えてきた問題点を記入して下さい。 ・新型コロナウイルス感染予防が地球のみんなを守ることに繋げるために、授業の流れを考えるのに悩んだ。 ・小学校1年生を対象だったので、語彙や発表する方法等が限定された。
13. 改善点	※実践を再度実施することや、他の学校で追試する場合のことを想定して、改善点を示して下さい。 ・小学校中学年以上の学年なら、もっと交流をして、発表する場面設定もできると思う。(ただ、コロナ禍なのでできるかどうかは現場の判断になると思う。)
14. 成果が出た点	・この単元を設定することで、自分が新型コロナウイルス感染予防することが地球のみんなを守ることに繋がっていると考える児童が多くいた。 ・新型コロナウイルスについて考える授業をしたことで、より感染予防を意識した学校生活ができていると思う。 ・JICA 冊子に感染症について分かりやすく書かれていたので、児童が感染症を理解するのに有効だった。
15. 学びの軌跡 (児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど)	※この単元における学習者の変容が読み取れることを意識して下さい。記入者が文章記述を通して「このように変容した」と教師の言葉でその見取りを書くことも可能ですが、できる限り学習者本人の言葉や作品で示していただくことにより、具体性、説得性の高いものになります。 ・日本で東京オリンピックが開催されることを意識したせいか、オリンピックマークや日本の国旗を書く児童が多かった。 ・人と手をつないでいるマークやウィルスを止めるという独創的なマークを表現する児童もいた。
16. 授業者による自由記述	・今でも新型コロナウイルスが猛威を振るっている。地球のみんなの命を守るためにできることを日々意識して学校生活をしている。まだこの状況が続きそうなので、この授業で学んだこと意識して児童とともに感染予防に努めていきたい。そして、東京オリンピックの開催を待ち望みたい。

参考資料：・コロナウィルスについて（藤田医科大学）

- ・感染症（JICA 冊子）
- ・オリンピック／パラリンピック学習読本（東京都教育委員会）

国際理解教育／開発教育 学習指導（活動）案

【実践者】

授業者氏名	脇田 佐知子	学校名	名古屋市立植田東小学校
教科（科目）・領域	総合的な学習の時間	対象学年（人数）	5年1～4組（125名）
実践年月日もしくは期間（時数）	2020年 9月 ～ 2021年 11月（19時間）		

【単元構成】

単元名	食とわたしたち～地球的な視野で食について考えよう（全45時間）		
1学期	小単元①（全9時間） 世界の食や身近な食と世界のつながりを調べよう		
2学期	小単元②（全19時間） 地域のお悩み解決プロジェクト ～食品ロス問題を解決しよう～		
3学期	小単元③（全12時間） 学校のお悩み解決プロジェクト ～給食の残食を減らそう～	小単元④（全5時間） これからの日本の食や自分の食生活のあり方について 意見文で表現しよう（総合的な学習の時間+国語）	

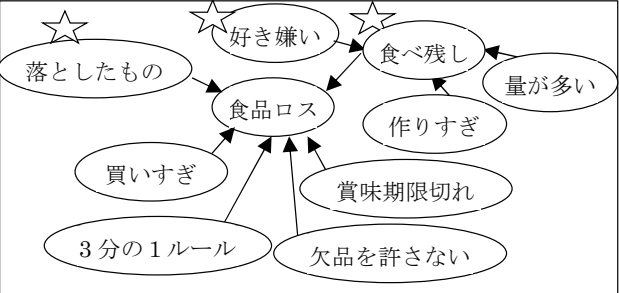
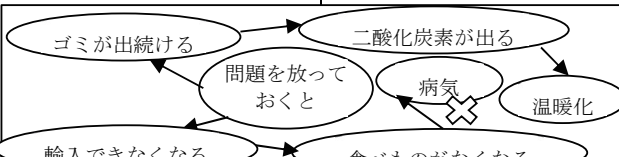
【実施概要】

1. 小単元名(活動名)：地域のお店のお悩み解決プロジェクト～食品ロス問題を解決しよう～						
2. 実践する教科・領域： 総合的な学習の時間		3. 学習領域				
			1	2	3	4
		A 多文化社会	文化理解	文化交流	多文化共生	
		B グローバル社会	相互依存	情報化		
		C 地球的課題	人権	環境	平和	開発
		D 未来への選択	歴史認識	市民意識	社会参加	
4. 小単元の目標（評価規準を意識して設定）： 地域のお食を扱うお店の食品ロス問題の探究から、食品ロスの実態や食品ロスの問題が地球規模の様々な課題とながっていること、問題を解決するために様々な取り組みが行われていることを知るとともに、自分たちにできる解決策をSDGsの視点やお店の人の願いをもとに考え、実行することができる。						
5. 小単元の評価規準	①知識及び技能	a.食品ロスの実態や食品ロスの問題は地球規模の様々な課題とながっていること、課題解決の必要性、問題を解決するために様々な取り組みが行われていることを理解している。 b.インタビューやアンケートによる調査活動を目的や対象に応じて、適切に実施している。				
	②思考力、判断力、表現力等	c.課題解決のための計画は、解決の見通しをもって、何を指し、そのために何をするのかを意識している。 d.お悩み解決のための活動は SDGs の視点やお店の願い等を結びつけて、多面的、多角的に判断して考えている。				
	③学びに向かう力	e.お悩み解決のための活動では、環境に配慮し、お店の願いをかなえて、食品ロスを減らすためにできることを見つけて関わろうとしている。 f.お悩み解決のための活動では、自他の考えのよさを生かしたり、役割分担をしたりして、協働して課題解決に取り組んでいる。				

6. 小単元設定の理由・小単元の意義 児童観、教材観、指導観	【単元設定の理由あるいは単元の意義】 食品ロスは、世界で年間13億トン以上、日本でも年間600万トン以上出ておりSDG12にもその削減が記されている地球規模の課題である。地域の食を扱うお店や現任校の給食からも食品ロスは出ており、グローバルな課題でもありローカルな課題でもある。 そこで、子ども達が、地域の食を扱うお店の食品ロスの問題を解決するプロジェクトに取り組むことで、食品ロスについて知るとともに、自分自身の食生活やライフスタイルを見つめ直す機会とすることができると考える。また、課題解決活動に参画することを通して、自分自身の能力に気付いたり、これからも地域や社会に関わっていこうとする気持ちを高めたりすることができると考える。 【児童／生徒観】 学習に対して意欲的に取り組む児童が多く、自分の考えをもつことができている。しかし、それを他者に伝えたり、実行したりすることには消極的な児童が多い。また、自分から行動することが得意ではない児童、指示を待ってから行動する児童もいる。 給食については、野菜嫌いな児童が多く、野菜がメインの日は残食が多くなる。1学期に取り組んだ「世界の食や身近な食と世界のつながりを調べよう」では、食事の仕方、おやつ、有名な料理などに興味をもっている児童が多い。世界の食の課題について一部の児童が取り上げているが、多くの児童にとっては関心が低いものとなっている。 【教材観】 食は子どもにとって身近なものであり、興味のあるものである。そこで、1年を通して、地球的な視野で食に関わっていくことを通して、自分たちの食に対する見方が変わり、ライフスタイルや食生活を見直すきっかけになると考える。 食品ロスは、日本や世界の課題であるだけでなく、地域でも起こっている課題でもある。また、食品ロスは、日本が様々な食料を外国から輸入していること、食料輸入にはエネルギーの問題や温室効果ガスの排出による地球温暖化の問題があること、輸入国の環境破壊や人権の問題にも関連していることなど、地球規模の様々な問題とのつながりについても学習することができる。一方、食の安全や便利さなど簡単には解決することが難しい部分もある。 地域の食を扱うお店の食品ロスの問題を解決する活動に取り組むことを通して、自分たちの食生活が世界とつながっていること、自分たちの行動が身近な地域や世界に影響を与えていることに気付くことができると考える。 【指導観】 社会科で1学期には米作りと農業、水産業について学習し、2学期は、これからの食料生産について学習をする。社会科で学習したことを総合的な学習の時間とつなげていきたい。 地域のお店のお悩み解決プロジェクトとして、プロジェクト型で学習に取り組んでいくことで、子ども達が興味をもって、探究的に課題を解決していくことができるようにする。				
	7. 小単元計画（全 19 時間）				
時	ねらい	学習活動	資料など	評価方法	評価
第1次1・2 課題設定本時	食品ロスの問題の解決の必要性に気付き、地域の食を扱うお店の課題解決に関心をもつ。	・ 同年代の飢えに苦しんでいる子どもの映像資料を見る。 ・ 食品ロスの因果関係図をかく。 ・ 食品ロスを放っていた時の派生図をかく。 ・ 問題を解決するためにできる事を考える。 ・ 関わるお店を決める。	・ 写真映像資料入りスライド「ソマリアでの炊き出し」(ワールドビジョン)(WFP)「バン格拉デシュ ミナちゃん」(ワールドビジョン)	1枚ポートフォリオワークシート	a
第2次3～5 情報収集	食を扱うお店の食品ロスの実態や工夫について知るための質問を考える。	・ アンケートで聞きたいことを出す。 ・ 質問を分類し、よりよい質問を選択し、アンケートを作成する。 ・ アンケートの依頼の電話を		ワークシートアンケート	b

		・ 食を扱うお店に郵送でアンケートを出す。			
第3次 6 情報収集	食品ロスについて様々な角度から知るとともに、SDGs や日本、外国での食品ロス削減に向けての取り組みを知る。	・ パンと世界とのつながりを知る。 ・ SDGs について知る ・ 世界、日本での食品ロス問題解決のための取り組みを知る。	・ 本 ・ パンフレット「ぼくら地球調査隊「世界の食料」」「どうなっているの？世界と日本」 ・ 消費者庁、農林水産省などの取り組みとしてのポスター	ワークシート	a
第4次 7・8 課題設定	お店からのアンケートをもとに、食品ロスに対するお店の工夫や実態を知る。	・ お店の食品ロスに対する工夫を知る。 ・ お店の食品ロスに対する困りごとを知る。		課題シート	c
第5次 9・10 情報収集整理分析	お店からのアンケート結果をもとに解決策を考える。	・ お店の困りごとから問題点を見つけ出す。 ・ お店、お客、SDGs などの視点から解決策を考える。 ・ 解決策を出し合い、自分たちにできるより良い解決策を考える。		解決策シート	c d
第6次 11 まとめ表現 課題設定	活動内容が伝わるように、解決策をクラスで提案する。	・ 決めた解決策を自分たちができること、お店ができることの視点で提案する。 ・ 提案された解決策の良い点、改善点を出し合う。		解決策シート 活動の様子	c d f
第7次 12 まとめ表現 課題設定	活動内容が伝わるように、解決策をお店に提案する。	・ 決めた解決策を自分たちができること、お店ができることの視点で提案する。 ・ 解決策に対する意見やアドバイスをもらう。		解決策シート 活動の様子	c d f
第8次 13～15 まとめ表現	解決策を決定し、解決策の準備をする。	・ 目的や根拠を明らかにして解決策を決める。 ・ 解決策としてお店に渡すポスターなどの作品を作る。	・ 様々なポスターやポップ	活動の様子 作成したもの	e
第9次 16 まとめ表現	地域のお店の課題解決を実行する。	・ お店に解決策として作成したものを届ける。 ・ お店に作成したものを掲示してもらう ことなどを依頼する。		活動の様子	e f
第10次 17・18 課題設定	解決策の効果を知るとともに、これまでの活動をふりかえりお店に手紙を書く。	・ お店からもらった手紙で解決策の効果について知る。 ・ 解決策を振り返る。 ・ お店にお礼の手紙を書く		ワークシート 手紙	a e
第11次 19	これまでの活動の意義付けをする。	・ 解決策を実行した結果を振り返る。		振り返りシート 1 枚ポートフォリオ	a e

8. 本時の展開 (概略)			
本時のねらい：飢えの現状、食品ロスの原因や食品ロスの問題と世界の課題とのつながり、自分自身の関わりについて知り考えることを通して、食品ロスの問題の解決の必要性を認識するとともに、課題解決のためにできることを考え、地域の食を扱うお店の食品ロスの問題解決に向けての意欲を高める。			
過程・時間	教師の働きかけ・発問および学習活動	指導上の留意点 (支援)	資料 (教材)
導入 3 分	1. 1 学期の学習を振り返る。 「世界の食には、楽しい面だけではなく、課題があることに気付いていた子もいましたね。」「2 学期はその課題についても勉強していきましょう。」	1 学期の学習のふり返りを書いたフラッシュカードを提示する。	
16 分	2. 世界の食料事情と日本の食品ロスについて知る。	【フラッシュカード】 - 食は世界とつながっている。 - 世界には日本と違ったり、同じだったりする食文化がある。 - 食は生きていくために大切でありなくてはならない。 - 食には課題もある。	
(2 分)	(1) 写真資料①を見てどこで、何をしているところか予想する。 「12 歳の少女ミナはどこで何をしているのでしょうか。」	背景を隠し、どこにいるのか、予想を立ててから答えられるようにする。	写真資料① (ごみを拾う子ども)
(2 分)	(2) 映像資料①を見る。 「皆さんと年の変わらない子どもが食べ物を得るためにこのような苦勞をしているのです。」	質問の答えとして、動画を見せるようにする。	映像資料① (バングラデシュで貧困のためごみを拾い売っている少女)
(2 分)	(3) 写真資料②を見て、子ども達は何をしているのか予想する。 「子ども達は何をしているのでしょうか。」	子ども達が手に持っている物を隠し、その後それを見せることにより、持っている物がヒントになることを伝える。	写真資料② (配給を待つ子ども)
(2 分)	(4) 映像資料②を見る。 「1 日 1 回行われる、食料援助の配給をもらいに来ていたのです。」 「ひどいききんにより、作物がとれなくて食料に困っているのです。」 「飢えの原因は、ききんだけでなく、貧しいことにもあります。」 「バングラデシュやソマリアの全ての人が飢えている訳ではありません。写真や映像で見た飢えている子ども達は、飢えている人々の一部です。」	同年代の子ども達が、食べ物を十分に食べられていない現状に気付けるようにする。	映像資料② (ソマリアの首都モガディシュで食料援助をしている様子)
(8 分)	(4) 飢えの状況、食料援助の量、食品ロスの量について知る。 「世界では、どのくらいの人が飢えているのでしょうか。」 「食料援助は 1 年でどのくらい配られているのでしょうか。」 「日本の食品ロスは 1 年でどのくらいでしょう。」	- 飢餓の現状、食料援助の量、食品ロスの量に関して知る中で、飢えている人がいる一方で、食べ物を捨てていることの問題に気付けるようにする。 - おにぎりに換算し、その量の多さや食べられるものなのに捨てている問題点にも気付けるようにする。	

展開 1 分	3. めあてを確認する。 食品ロスの問題について考えよう。	食糧援助よりも食品ロスの量が多いこと	
6 分	4. 「食品ロスとは」に続くはじめの考えを書く。 「食品ロスとはどのようなものだと理解したり、感じていたりしているのか今の考えを書きましょう。」	間違っていないでも構わないので、現時点での考えを書くようにする。	
19 分 (7 分)	5. 食品ロスの問題の原因について考える。 (1) 個人で食品ロスの原因を付箋紙に書く。 「なぜ食品ロスが出てしまうのでしょうか。その原因となることを書きましょう。」 「どのような場所で、どのような場面で食べ物を捨てることになっていたのか思い出して考えてみましょう。」	食品ロスについて全く分からない児童には、食べられるものを捨てていることであることを伝える。	- 付箋紙 - ペン
(10 分)	(2) グループで考えを共有する 「意見を言いながら、付箋を模造紙に貼しましょう。」 「同じ意見や似た意見は、近くに貼るようにしましょう。」 「食品ロスにつながるように矢印をかきましよう。」	グループで、それぞれに意見を言ってから、模造紙に貼り出すようにする。	模造紙
(5 分)	(3) 学級全体で共有し、様々な場面における食品ロスの問題の原因について知る。 スーパー・コンビニから出る食品ロス（消費賞味期限切れ、3 分の 1 ルール、欠品を許さない）、レストラン、給食から出る食品ロス（食べ残し・好き嫌い）、家庭から出る食品ロス（消費・賞味期限切れ・作りすぎ・食べ残し）など、出てこなかった内容について取り上げる。	- 貼ったものを動かし、食品ロスの原因につながるようにする。 - 他のグループの模造紙を見て回り、自分のグループにない意見を伝え合い、書き足すようにする。	
(2 分)	(4) 食品ロスの問題と自分とのかかわりについて気づく。 「自分もしている、してしまったなど関係のあるものに☆をかきましよう。」		
14 分 (9 分) (2 分)	6. 食品ロスの問題を放っておくとどうなるのか考える。 (1) クラス全体で派生図をかく。 「食品ロスが続けるとどうなるでしょうか。」 (2) 問題を放っておいた時の最悪の事態について考える。 「黒板にあるもので、最悪の事態だと思うものに×印をかきましよう。」	黒板に書き出すようにする。	

13 分 (10 分)	7. 食品ロス問題解決のためにできることを考える。 (1) 学級全体でできることを表に書く。 「食品ロス問題解決のためにどのようなことができると思いますか。」 <table border="1"> <tr> <th></th><th>自分ひとりで</th><th>学校や家庭に</th><th>地域のお店や地域の人の</th></tr> <tr> <td>すぐ</td><td>食べ残さない 買いすぎない</td><td>家族に食べ残しを しないように呼び かける</td><td></td></tr> <tr> <td>なんとか</td><td>おかわりをする 皮を取りすぎない</td><td>クラス給食を残さ ないように呼びか ける</td><td></td></tr> <tr> <td>がんばれば</td><td>野菜を育てる 生ごみでたい肥を 作る</td><td>学校のみんなに給 食を残さないよう に呼びかける</td><td>地域の人に呼びか ける</td></tr> </table>		自分ひとりで	学校や家庭に	地域のお店や地域の人の	すぐ	食べ残さない 買いすぎない	家族に食べ残しを しないように呼び かける		なんとか	おかわりをする 皮を取りすぎない	クラス給食を残さ ないように呼びか ける		がんばれば	野菜を育てる 生ごみでたい肥を 作る	学校のみんなに給 食を残さないよう に呼びかける	地域の人に呼びか ける	- 食品ロスの問題からは良いことが起こらないことから、解決の必要性があることに気付くことができるようにする。 - どのようなことができるのか自分、学校や家庭、地域のお店の視点と、すぐ、なんとか、がんばればの視点で考えるようにする。 - 個人や家庭、学校では、すぐにできることがありそうだが地域のお店は、お客さんを相手にしているため、すぐには難しいことに気付くことができるようにする。そのことから、みんなで協力して、地域のお店のためにできることを考えていこうと意欲を高める。	行動表
	自分ひとりで	学校や家庭に	地域のお店や地域の人の																
すぐ	食べ残さない 買いすぎない	家族に食べ残しを しないように呼び かける																	
なんとか	おかわりをする 皮を取りすぎない	クラス給食を残さ ないように呼びか ける																	
がんばれば	野菜を育てる 生ごみでたい肥を 作る	学校のみんなに給 食を残さないよう に呼びかける	地域の人に呼びか ける																
(3 分)	(2) 表から分かることを話し合う。 「表を見て、どのようなことが分かりますか。」 - 自分ひとりでは、すぐにできることがありそう。 - 自分たちにやれることがいろいろあると思う。 - 地域のお店や地域の人にはすぐできることがなかなかなさそう。																		
8 分 (2 分)	8. 今後の活動について知る。 (1) 地域のお店が食品ロスでどのようなことに困っているのか予想する。 「どんなことに困っていると思いますか。」 - お客さんの食べ残しが多い。 - 売れ残りがある。																		
(1 分)	(2) お店のお助けをするためにアンケートを取ることを知る。																		
(5 分)	(3) 関わりたいお店を選ぶ。	どこのお店でもよいのか、関わりたいお店があるのか調査を行う。	調査の紙																
まとめ 10 分 (5 分)	9. 本時のまとめと振り返りをする。 (1) 今日の学びについて振り返りを書く。	1 枚ポートフォリオの書き方を説明し、本時の振り返りを書くようにする。	1 枚ポートフォリオ																
(3 分)	(2) ふりかえりの内容をグループで共有する。	最初に話す人だけを決め、そこからは指名をして順に話をするようにする。																	
(2 分)	(3) 全体で共有し、次時からの活動を確認をする。 「次回は、地域の食を扱うお店の食品ロスの問題を解決するためのアンケートづくりをがんばりましょう。」	全体で発表した児童の振り返りをもとに、次時の活動のために、何が必要であるのか確認する。																	

9. 評価規準に基づく本時の評価（評価方法） 飢えの現状、食品ロスの原因や食品ロスの問題と世界の課題とのつながり、自分自身の関わりについて知り、考えることを通して、食品ロスの問題の解決の必要性を認識するとともに、課題解決のためにできることを考え、地域の食を扱うお店の食品ロスの問題解決に向けての意欲を高めることができているか。 （1枚ポートフォリオ、因果関係図、派生図、行動表から）	
10. 学習方法および外部との連携 【関わった人や関係機関】 ・地域の食を扱うお店：手紙、電話、オンラインでのやりとり 【学習方法】 ・プロジェクト型学習による探究的な学習を行う。	
11. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取り組み 学校内では、5年生4クラスで実践を行う。	
【自己評価】	
12. 苦労した点	【本時について】 ・食品ロスの問題を自分事にするために、食品ロスの問題にどのように出会わせ、どのように展開していったら良いのかを考えることに苦労した。そこで、食べ物を十分に食べることのできない子ども達の動画を導入で活用し、食料援助量と日本の食品ロスの量をおにぎりの数などで比較することで出会わせ、食品ロスの因果関係図を作成し、原因に自分も関わりがあることを認識させることで自分事になると考えた。実際には、多くの児童が食品ロスの問題に対して衝撃を受け、食品ロスに対する認識を深め、自分事となっていたが、一部の児童は、自分は食べ残しをしないので、自分は原因を作っていないという考えを持っていた。 ・お店の食品ロス問題を解決していこうという意気込みを持たせるために、お店との関わることをどのように知らせていくと良いのかを考えることに苦労した。実際には、食品ロス問題を解決するための行動表の「自分ひとりで」「家族・学校に」「地域のお店、地域の人に」をクラスみんなで考える中で、「地域のお店が困っているので助けてあげよう」という流れで地域のお店と関わることを伝え、どのお店と関わっていくのかを決めることでお店の問題解決への意気込みを持たせた。子ども達は、やる気をもって取り組むことができたが、少し強引な流れであったように感じた。
13. 改善点	【本時について】 ・食品ロスについて全く知らない児童もいたので、食品ロスは食べられる食べものを捨てることであることを因果関係図を作成する前に、伝えておくべきであった。そうすることで、どのようなところで食べられるものが捨てられているのかを想像することができ、より多くの考えが出てきたのではないかと考える。 ・因果関係図を作成する際の付せんの色を意味なく適当に配布してしまったが、最初の時点では、全て同じ色の付せんにしておき、他のグループの成果物を見た後に書き加える際に違う色の付せんを使うなどの色に意味を持たせるようにしておくと良かった。そうすることで、付け加えた意見がどれであるのか、視覚的にもよく分かるようになったのではないかと考える。
14. 成果が出た点	【本時について】 ・貧困のために働く少女の動画と炊き出しをもらいに来る児童の動画を見ることにより、飢えている人々が世界にはいることを共感的に伝えることができた。また、食料援助量と日本の食品ロスの量を比較するのにおにぎりを用いて、その数や並べた時の長さなどで比較したことで、日本の食品ロスの量の多さや、食料援助量よりも多いことの問題点などにも気づかせることができた。 ・因果関係図を作成することで、食品ロスの原因となっていることが身近にある事に気づかせることができた。また、自分もやってしまったことがあることや、やっていることに印を付けさせることで、自分にも関係のある事だということに気づかせることができた。 ・派生図を作成しどのような問題につながっているかを考えることで、食品ロスの問題は、何一つ良いことにつながっていないことに気付かせることができた。そのことが、食品ロスの問題は解決する必要があるという意識につなげることが

	できた。 ・ 地域のお店が食品ロスの問題に困っているから、解決しようという流れにしたことで、お店の問題を解決したいという意欲につながることができた。
15. 学びの軌跡（児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど）	【本時の感想】 ・ 世界ではたくさんの子供が飢えているのに、日本はかなりの量の食べ物を無駄にしていることが分かった。 ・ 飢えに困っている人の食料援助より日本の食品ロスの方が多いのがおかしいと思った。 ・ 食品ロスは自分に関係ないと思っていたけど、自分にも関係していた。 ・ 食品ロスは身近なことなんだと思った ・ 食品ロスはいいことがないから、食品ロスが起こらないように世界中のみんなと、気をつけないといけないと思った。 ・ 地域のお店の困っていることを知って、解決ができるようになりたいと思った。 ・ アンケートを取るのがすごく楽しみだから早くやりたいと思った。 ・ 食品ロスを減らすためにどんな取り組みが行われているのか知りたくなった。 【お店の問題の解決策として作成したポスターやポップ】
16. 授業者による自由記述	食品ロスの問題を社会参画して解決のために行動するというプロジェクト型の学習で実践をしてみたことにより、様々な成果があった。今後は、食品ロス以外の問題に対しても、社会参画して解決のための行動をしていく実践を積み重ねたい。

【参考資料】

- ・ 井出留美 (2019)「食品ロスの大研究 なぜ多い? どうすれば減らせる?」PHP 研究所
- ・ 井出留美 (2020)「捨てられる食べものたち」旬報社
- ・ 千葉保 (2011)「食から見える「現代」の授業」太郎次郎社エディタス
- ・ 千葉保 (2005)「コンビニ弁当 16 万キロの旅」太郎次郎社エディタス
- ・ ケイティ・ディッカー 原著 稲葉茂勝 翻訳・著 こどもくらぶ編集 (2015)「信じられない「原価」買い物で世界を変えるための本③食べ物」講談社
- ・ JICA 資料「ぼくら地球調査隊「世界の食料」
- ・ mundi 特集「食卓から世界を旅する」「食の不均衡にみんなで挑む」
- ・ 農林水産省 (2019)「知ってる? 日本の食料事情～日本の食料自給率・食料自給力と食料安全保障
- ・ 農林水産省 https://www.maff.go.jp/j/zyukyu/zikyu_ritu/attach/pdf/panful1-38.pdf
- ・ 国連 WFPweb サイト (2019)「数字で見る国連 WFP」
- ・ 消費者庁消費者教育推進課 (2020)「食品ロス削減関係参考資料」消費者庁
https://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer_policy/information/food_loss/efforts/pdf/efforts_200331_0001.pdf
- ・ 国際 NGO ワールドビジョン「バングラデシュ ミナちゃん」
<https://www.worldvision.jp/news/shien/20151130.html>
- ・ 公益社団法人 A C ジャパン「おむすびころりん、1 億個」
https://www.ad-c.or.jp/campaign/self_all/self_all_02.html